

テラーメイドリスクコミュニケーション

一患者、市民の属性やリテラシーに対応した医療従事者のメッセージによるリスクマネジメント

薬学部 福田 八寿絵

薬学研究の対象は、基礎や臨床など多様であり、研究手法もさまざまである。また薬剤師業務も「モノから人へ」といわれるように、薬剤師を含む医療従事者にとって対人支援のリスクコミュニケーションの必要性和重要性が指摘されるようになってきている。医薬品のリスクをどのように患者やその家族等に伝えれば、適切な意思決定や医薬品の適正使用などの行動変容につながられるのか、リスク情報の伝わり方は、個人の属性やリテラシー（情報の読み解き・認識能力）によってどのように異なるのであろうか。

以上のような問題意識から現在取り組んでいる研究内容について発表する。

#### 1. 自動車運転に影響を及ぼす医薬品の情報提供に関する研究

Risk awareness, medication adherence, and driving behavior as determined by the drug information to patients Patient education and counseling 2020

アルコールや違法薬物のみならず、抗うつ薬や抗ヒスタミン薬、抗てんかん薬など処方箋医薬品も自動車運転技能に影響を及ぼし、自動車事故を引き起こすことが報告されている。医師や薬剤師など医療専門職の発するメッセージの相違による服薬アドヒアランスや運転行動、医療従事者への相談行動について検討を行った。検討の結果 メッセージの相違により、情報の受け手である患者の医薬品の自動車運転のリスク認知やアドヒアランス、運転行動、医療従事者への相談といった行動に影響を及ぼすことが明らかとなった。また、運転服薬行動には性別、批判的リテラシー、コミュニケーションリテラシーとの関連が認められた。

#### 2. 自動車運転の注意喚起のためのピクトグラムの有用性に関する研究

Effect of a Japanese drug alert pictogram on medication-taking/driving behavior  
Traffic Inj Prev. 2020;21(1):18-23.

医薬品の適正使用のために視覚に訴えるピクトグラムの利用が日本のみならず海外でも検討され、製薬企業の説明文書に記載が義務付けられている国もある。

本研究は自動車運転の注意喚起のために薬の適正使用協議会で策定されているピクトグラムの有用性についてアンケート調査により検討を行った。検討の結果、ピクトグラムにより、リスク認知が高まる可能性やピクトグラムの有用性は示された、ピクトグラムによるリスク認知、有用性には性差があり、女性の方がリスクの認知や有用性評価が高いという結果となった。ピクトグラムを薬袋や情報提供文書に挿入することで自動車事故防止につながる可能性が示唆された。一方、ピクトグラムの認知度が 5.4%と低いことから利用を進め、認知度を高める必要性が示唆された。